

レジリエンス向上のためのリスク・コミュニケーションの重要性

【要約】

本稿では、事業継続計画についてレジリエンスの観点から書かれている。リスクに対する柔軟な体制であることが、企業内部の非公式な行動規範、価値観が育つということに繋がる。そこで、その前提になることを指摘すると経営者はリスクに直面した場合の問題解決のためには、マネジメントの優先順位を正しく指示しなければならない。特に中小企業の場合は、トップダウン型であることから、経営者の判断がそのまま企業の判断となる。そのため、リスクの認識に基づくリスク評価能力やリスク対応への意思決定の経営者の能力も重要である。

事業継続計画においては、個々の計画項目の見直しに加えて、関係機関との一部の寸断が自社の経営活動に大きな影響を及ぼした場合を想定して自社にあった計画を実行するのが重要である。中小企業にとっての事業継続計画は、緊急時に早期の生産再開に繋がるきっかけの一つである。その結果、自社だけではなく地元社会と取引先に対して信頼感と安心感を与えるために被害から復旧状況の見通しを明確に発信することもできる。そのためには、企業は定期的な訓練と継続的な研修を通じて緊急時に取るべき行動や復旧を円滑にする詳細な指示を行うことでの有効性を確実にできる事前的なリスクマネジメント体制がいかに重要であるかを再考察しなければならない。

【感想】

リスクマネジメントを確立させるためには、経営者の役割と責任が重要であることを感じた。また、中小企業などのトップダウン型の企業にとったら、経営者の判断がそのまま企業の判断となる。このことから経営者の意思決定の重要性を感じた。また、今年度の私たちの活動の一つとして、金型産業の中小企業にお勤めの従業員さん、及び経営者さんにインタビューをする。この時に得た経営者さんのレジリエンスは企業のレジリエンスと考えることが出来る、と証言できるのではないかと感じた。